かわいいですケド
だいぶバカ。
buying. 18-year-old or less prohibits
content
R-18
including

かわいいですケド
だいぶバカ。

黒子、火神、青峰で様々な交じり合い表現があるのでご注意下さい。

はっ！
まーた俺の圧勝だったな～？
ぶ～っ!! クソッ…!!
くっそ…次は勝つ！
次だ！次！
だーから何回やっても同じだっつの！
プル
プル
プル
プル
プル
プル
プル
プル
フラッ

黒子おおおおおおおおおお！
テツウウウウウウゥゥ！
ぱたり…
どうしたんだよ！何があった！
うう…
平気かテツ!?
大丈夫で…
ぐぶっ
ドバァアア
うわあああああああああああああああああっ！
あおみね
やべえ…！黒子が死んじまう！
オロ
オロ
きゅうきゅうしゃ…きゅうきゅうしゃよぼうぜ!?
だ…大丈夫ですから落ち着いて下さい…
これは火神くんと青峰くんに治せる病気なんです…
グイ
↑鼻血
な…なんだって!?

オレ達に治せるって…

一体何のビョーキなんだよ…！

ボクの病気は火青火くれくれ病…

ゼェ

ゼェ

は？何て？

この病気はキミ達にしか治せない……

何だ!?オレ達は何をすれば いいんだ!

火青火くれくれ病は…火神くんと青峰くんのエッチな姿を見れば治ります…

……

マジか……

↑バカ↑

↑アホ

はい…マジです…

だから…二人のエッチな絡みボクに見せて下さい…

お願いします…

……

……

わかった…！

テツの為なら…黒子

やってやるぜ！

わーいやった～

とりあえず えっほ

オレらも はこぶぞっ

おっ えっほ

あんま無理するなよ？具合悪くなったらすぐ病院連れてくからな…
はい…ありがとうございます…
オレ達はどうすればいいんだ？で…
何すりゃいいかわかんねーんだよ…
では…まず
わかりました説明してくのでポクの指示に従ってください…
っ…!!
二人でキスをしてください…

キス

……

じっ…

してください

さあはやく…

ボクの寿命がどんどん減って行きますよ…

あーーもう！わーったよ！

んっ！

ガバッ

まだ離しちゃいけませんよ

もっと激しくキスして下さい…

な……！

あれ…？ボクの言う事聞いてくれるんでしょう…？

まりり

まず舌を出して…

からませあって…

くちっ…

唇を噛んだりぴっぱったりして遊んで下さい…

はむっ

そうです…とてもいい調子です…

はぅ…

んにゃ

唾液を交換しあって…

お互いのを飲み込んで…

くちゃ

ぴちゃ

ぴちゃ

くちっ

たっぷり互いの唇を味わって下さい…

ぬちゃ

くちゃ

青峰くん
ぷは
あ？
火神くんの乳首をいじったり舐めたりしてあげてください。
っ…やだよ！
ああああ～！わーったよ！
やるからテツはおとなしく見てろっ！
お、おい！
んっ
ガぷっ
カーッ
ピクッ
!!

…っ…

さわ

さわ

かてぇ…

たりめーだろ！

まー…
いいけどよ…

ペロッ

んあっ…！

こら…
やめ…っ！

うるへー
おとなひく
ひてろ…ん…

ちゅっ

ちゅう

ちゅう〜

ひっ…

なー…

かりっ

こりこり

こりっ

なんか
尖ってきたけど

カァッ

感じてんの？

あ…
ふ…
ぷちゃ
ちゅっ
んー…
ギキッ…
もじ
もじ
あれ…火神くんどうしたんですか…？
股間をそんなに膨らませて…
青峰くんに乳首をいじられて大きくしちゃったんですか？
カァァ

は〜っ

はあ…仕方ないですね。悪い子です…

青峰くん…火神くんを助けてあげて下さい。

助けるって…

火神くんのおちんちんを舐めてください。

!!

なっ！

舐めてあげると火神くんの病気も治るんですよ…？

っ…黒子…いい加減に……

カッ

火神！

じっ…

…わーったよ…

お…おい…

ガシッ

こ、こら…！
やめ…！

いーからおとなしくしてろ！

れろ…

うあ…っ！

んっっう！

ビクッ

っ…は…

こら…あお…みね…！

んぅ

ふ…

ジュプッ

ジュポッ

ジュポッ

ジュル

ん…っ

れろ

れろっ

っぁ…！

そ…んな…

んむぅ…

ズルル〜ッ

うぁあっ…！

くっ…

や…め…

ビクン

ビクッ

ジュプッ

ジュポッ

ジュポッ

ジュポッ

んっ

んなに…されたら…

出ちまう…だろ…！

ジュポッ

ジュポッ

ジュポッ

んくっ

…ん…らへよ…

っ…くぁ！

…っ——！

ビクッ

ビクン

青峰くん
ビクッ
ゴクン
おいっ…！
んなもん
飲むな…
カァァァッ
火神くん
…っ！
もじっ
見てください
青峰くんは
よく調教されてます
から…
青峰くんにも
病気がうつって
しまったみたいですよ？
もじ
ギゅっ

く…黒子！
青峰はどうすれば
治るんだ…!?

…舐めて勃起する
なんて…
ほんといやらしい子…
ですね…

まあ…やってみないと事にはわからないですね

スッ

やるからには徹底的に青峰くんを気持ちよくして病気を治してあげましょう…

お…おう…

ギラ

ん…っ

とりあえず落ち着いてボクの言うとおりにしてください。

コク コク

まずは脱がせて…

おう…

ああ……

やっぱり青峰くんはかわいい…

スイッチが入った青峰くん昔と変わってないですね…

…♥

では次はおちんちんを触ってあげて下さい

しごいて首筋をなめてあげて…

気持ちを高めてあげてください…

あっ…

ぎゅっ

ビク

ビク

ふあ…

あっ…ん…

ゴシゴシ…

クチッ

クチッ

あ…

ゾクゾク

れろ…

れるる～…

あっ

気持ちが高まると病気の治りも早くなるんですよ…

あっ

あ…

ビクッ

ビクッ

は…テツぅ…

ビクッ

っ……

♥ちゅっ

ちゅる♥

いい感じにとろけてきてますよ…

くち

くち

火神くん

ガシッ

く…黒子…？

っ…!?

ペロチャ…

ドキ
ドキ

次は…

ペロぱっ

青峰くんのおしりの穴に優しく指をいれてあげて下さい

…わ…わかった…

ビク

スス…

ビク

っ……

こ…こうか？

ペロ…

そうです…いいですよ

っは

もっと奥をこすってあげてください

グチ
グチ

うあ…！

あ…！

んうっ…

ピクンッ

う〜…！

もじ

もじ

刺激が足りないみたいですね…

グイッ

よーしょっ…

っ…テッ…？

火神くんとボクで一緒に気持ちよくしてあげましょう。

ふぁ…！

ヌプッ…

ふ…ぅ

ビク

わかりますか？

青峰くんのナカでボクと火神くんの指がぶつかってる

ビク

ひ…っあ…そこ…は…

……っ

グチュッ

もういいですよ抜いて下さい。

ぬぽ…

じゃあ…次行きましょう…

クルイ

あ…

ここに火神くんのおちんちんをいれるんです。

ぱーかあ

ひくっ…

ひくっ…

…っ！

はあ!?

何言って……

て…テッ…

それは…

青峰くんの病気がこのまま治らなくてもいいんですか？

テッ…！

わかりました…

火神くんもまだ完治していないみたいですし

ビクッ…

ギリッ

だったら……

ボクが二人まとめて治療します。

お、おまえ…

自分の病気は…

おかげさまで完治しました…

でも…今度は違う症状になってしまいました…

これ…
興奮して勃起したんです。
病気なんかじゃないですよ…？
ゴクリ…
…でも最初からわかってますよね…そんな事
ボクのごっこ遊びに付き合ってくれてありがとうございます…
優しいキミ達にご褒美をあげます。舌を出して下さい…

ぺちゃ…
んぁ…
くちゃ
ぴちゃ
ちゅる
ちゅる
ちゅる
んふ…
ん…
は…
トロ…
ナデ
ぺロッ…
二人はボクに逆らえない
ーこうなってしまったら…
二人で舐めてください…
正確には逆らわない、ですけど

ん…

……

ボクは二人の天性のものを引き出す為に

少し刺激してあげただけです

ん…

んっ…

んむ…

じゅぷっ

じゅぷっ

息ぴったりじゃないですか…さすがです…

はむっ

はむっ

いいですよ…とても気持ちいいです…

ボクが喜ぶ事を

本能的に感じ取る才能…

はあ…っ

ピク

っ…出しますよ…

あっ……

ぴゅ

ぴゅ

ぺろんぺろ

はぁ

はぁ

もったいねぇだろ…

んむ…っ

ぴちゃ

ぺちゃっ

ふ……

わーってるよ……んなこと……

ボクに抱かれはじめて日が浅い火神くんでもこうなんですから

一体彼らはどれだけの可能性を秘めてるのか…

二人とももう限界…ですよね？

うずいて仕方ないんでしょう？

ぴくッ

ぴくッ

本能には抗えない…

だから…

二人とももう諦めて下さい。

この責任…

ボクがきちんと取りますから

はっ…

っ…

は…すげ…

ふたり分…振動…やべ…っ

っ…

っ…!

ふふ…

ガク

ガク

ズチュ

ズチュ

ヌチッ

ヌチッ

ほんと青峰くんは刺激的な事…好きですねっ…
ガク
あっ♥あ、あ～♥
ガク
ね…火神くん…
いいでしょう？青峰くんのナカ…っ…
はあ
はあ
っ…！
二人ともあんなに躊躇してたのに…っ…
いざ挿入してしまうと虜になってるじゃないですか…っ
腰が動いてる…
火神くんも男の子なんですね…
うあっ…！
ズル…
どクッ
二人だけにしてあげます。
!!
青峰くんのこと好きに抱いてあげてください
っ…！

うああっ！

っは…！

っ…どー…なってんだよお前んナカ…っ

しらね、よばか…

おまえ、こそな…んでさっきからいいとこばっか…あ…！

あっ

あっ

～～っ…

～～っあっ…！

っ…は

も、やべ…出る…っ

んっ…おれもっ…いく…ぅ

うあああ…あ…っ！

っあ……
は……っ
ズルッ…
…オレも手伝ってやる…
おっ…おい！
お願いします青峰くん
ぐいっ
火神くん…
スス…
もう限界です…
ジクウ…
ボクも火神くんのナカでイきたい…
いいですよね…
ジク
は…っく
はぁ
は…
うあああ…！
ズズズ…
ビクッ
は…っ火神くんっ…
火神くんっ…
ガク

…んむっ！

はむっ

ガッ

それ…かわいいですケド…っ

ボクに集中してください…っ

ズキュ

ズキュッ

いけない子です…っ…！

ドン

はっ…火神くん…！

ガク

ガク

プルッ

プルッ

くろ、こ…っっ…あ…っ

も…だめ…だ…

火神くんっ…！

ズズ

ズズ

ズズ

いいですよ…一緒にイきましょう…！

ふ…っあああ…

ひっ……
ひあああ…ぁぁ…っ！

っぁぁ…っ

ビクッ

ビクッ

ビクッ

はぁ…

はぁ…っ

キミ達は本当にかわいい…

はー…

なぁ

なぁ

はー……

かわいいかわいい…

ボクの…

ボクの光た…ち…

フラッ

テッウウウウウウウウ!!

黒子おおおおおおおおおお!!

おい！安らかな顔してんじゃねー！

ギャー

やっぱ病気じゃねえか！

ブチャー

しまった…

おい！今度こそ…！

バタ

病院つれてくぞ！

バタ

ダンダンダンッ

おじっ…大丈夫だ、あたくんよっ…

で！

どこが悪いんだ!?

かわいいですけど
だいぶバカ。

悪夢の日曜日

mina

「ゲームをしませんか？」
唐突にそう言い出したのは黒子テツヤだった。
『バスケをしませんか？』そんなメールが青峰大輝と火神大我の元に届いたのは金曜日の夜のこと。どちらの学校もテスト期間中ということもあり、週末どちらも予定はないという。
そこでバスケをやるまではよかった。
ただ、今どうしてこうなってしまったのかはわからない。きっとこの場でそれがわかっているのは黒子ただ一人だけだろう。
「これは媚薬です」
火神が夕食の準備を終え、あとは食べるだけという段階で黒子が二人に声をかける。
そして鞄の中から取り出したのは二本の小さなボトルだった。明らかに市販されている容器ではなく、一度第三者の手によって移し替えられたと思われるそれは黒子の手の中でゆらりと怪しげに波打つ。
「これを飲んで先にイった方が負けです」
そんな条件など撥ね除けてしまえばよかったのかもしれない。しかし、何故か二人の脳裏に『拒絶』という言葉は浮かんでこなかった。
「くっ……そ、なんでこんなことに……」
「うるせえよ火神。お前下手クソ」
「はぁ!?」
「こりゃ俺の勝ちだな」
元々大きめのベッドだからとはいえ、百九十センチ以上の男二人が乗るようには作られていないそれが軋んだ音を立てる。
青峰がベッドの上に、更にその上に逆方向を向いて跨るように火神が四つん這いになる。
「火神くん、咥えてください」
「なっ……」
「その体勢で手だけなんてありえないじゃないですか。青峰くんの、咥えてください」
冷静な判断力など、このベッドに乗り上げた時から失っていた。薬の効果の所為かずっと熱に浮かされたような心地でいる。
「ッ……火神……」
両手で高ぶりを支え、舌を這わせれば吐息混じりの声が漏れる。
「形勢逆転だろ？」
「っ、ざけんな……」
容赦なく攻め立てられ、青峰は眉を

寄せ唇を噛み締める。その様子が面白くないのか、黒子が聞こえよがしに溜息を吐いた。
「青峰くん、それじゃ完全に青峰くんの負けですよ」
「ッ……」
黒子の言葉に青峰はどうにか火神を追い立てようと性器に手を伸ばすも、それを阻止するかのように自身を咥内に含まれれば再び手が離れる。
「や、めろ火神ッ……」
制止の声など聞く筈もない。青峰の荒い息が高ぶりを撫でるだけでも震えそうになるのを必死に隠しているというのに。
一刻も早くこの生殺しのような現状を打破するべく、火神は喉の奥まで銜え込む。快感がせり上がってくるのを感じた時には既に抗いようもなかった。
「……俺の勝ちだな」
「は、ッ……」
欲を吐き出したところで薬の効果は切れていないのかすぐにむずむずとした感覚が這い上がってくる。
「じゃあ今日は青峰くんが突っ込まれてください」
「は……？」
荒い息を整えながら青峰が言葉を発するも黒子はそれを聞き入れることなく再び自らの鞄を漁った。
「二人が楽しめるように今日は色んなものを持ってきたんです」
緩慢な動作でそちらを見やるとその手には優しげな口調とは裏腹にグロテスクな玩具がいくつも握られていた。
「今日はこれで徹底的に青峰くんを苛めてあげます」
その目が冗談を言っていないことは二人にもわかる。火神は心の中で青峰に同情しながらも、自分がその対象にならなくてよかったと密かに安堵した。
「っ、あ……火神っ……いてえっつってんだろ……」
「我慢できねえんだよ」
後ろから抱きかかえられるような体勢にされた青峰は適当に慣らされた部位に火神の熱を受け入れ、呻いた。
薬を飲まされたのは自分だけではなく、火神もなのだ、そう思えばこの性急な行為も幾分許せるような気がしてくる。
「青峰、自分で動けって」
「ば、かッ……」
火神の舌が青峰の首筋を伝う。そのまま顎を通り耳朶に触れた。
「やめ、……ぁっ」
軽く腰を突き上げれば青峰の口から堪えきれない喘ぎが漏れる。
「はしたないですね。さっきイったばかりなのにもう勃ち上がってるじゃないですか」
黒子は抑揚のない声でそう言うと手元の玩具のスイッチを入れる。小さな楕円形をしたそれは彼の手の中で小さく震えた。
そしてそのまま再び勃起し始めていた青峰の性器へと近づけた。
「ふ、……んぁ……」
下唇を噛んでそれでも耐えようとする青峰の様子に加虐心を煽られる。
「火神くん。そのまま思いきり奥まで突いてあげてください。どうやら青峰くんはもっと欲しいみたいですから」
「テツっ！」
「言われなくてもこっちも限界だって の」
ベッドの軋む音と三人分の荒い息が部屋に響く。手に小さな玩具を持った黒子は青峰の高ぶりにそれを触れさせると反対の手で根元を強めに握った。
「は、っぁ……」
「青峰くん、苦しいですか？ あの時火神くんに勝っていればこんなことにはならなかったのに……」
相変わらず感情の読み取れない声で黒子は言う。前と後ろ、両方から別々の刺激を与え続けられ最早青峰に理性

など欠片程も残っていなかった。
「も、ムリッ……」
「イカせてほしかったらちゃんと言ってください。僕と、火神くんにちゃんと」
「青峰、ほらっ……」
そう体型も変わらない男に後ろから抱えられ、突き上げられ、前からは別の男に絶頂に達することを阻止され続けている。
「う、ぁ……ッ頼むから……もう……」
「黒子、離してやれって。このままだと青峰飛んじまうから」
「しょうがないですね。もっと楽しめるかと思って色々他にも持ってきたんですけど……」
「最初にあんな薬飲ませるからだろ」
「じゃあ次は薬無しでやりますか？」
「やらねえよ！」
青峰を挟んで二人が言い合っている。しかし、互いに間にいる人物を絶頂まで導く動きをやめることはなかった。
「テツ……っ」
「あ、忘れてました」
掠れた声に黒子は一瞬だけ微笑んでみせると躊躇いもなくその手を離した。そして、玩具を高ぶりの先端まで移動させる。
「ひ、っ……ァ……ッ」
喉の奥から発せられた引き攣れたような声と同時に白濁が吐き出される。
無意識に逃げようとする体を火神が捉え、最後の一滴まで絞りつくそうとするかのように黒子の手が青峰の自身を扱いた。
そして青峰はそのまま意識を遠のかせ眠りへと――。
「……っていう夢を見たんです」
日曜の昼過ぎのマジバはそれなりに混雑している。そんな中、いくら周囲の雑音に紛れるからといって猥談を聞く程欲求不満ではない。
相変わらずバニラシェイクを啜りながら『今日は涼しいですね』と言うテンションと同じノリで黒子が見た夢の話をされた火神と青峰は、二人して呆けた面を曝すこととなる。
「黒子……その……」
「どんな夢見てんだよ。つーかなんで俺がお前らに……」
金魚のように口をパクパクとさせている火神よりも先に青峰が正常な判断力を引き戻す。
そして二個目のてりやきバーガーの包みを開けながらどうにか普通の話に戻そうと脳内で話題を選別した。
「ちなみに僕の夢は日曜の昼、マジバでご飯するところから始まってたんです。ほら、今日みたいに」
その言葉に火神と青峰はそれとなく視線を交わす。そして次の瞬間、黒子の隣に置かれた妙に大きめの鞄に気づいた。
「……テツ、その鞄の中……」
バスケットボールが二つほど優に入りそうなその鞄は明らかに旅行用のサイズだ。
そんなものをストバスのためだけに持ってくること自体が不自然だった。
「あ……見ます？　中身……」
ふわりと笑った黒子に言い様のない不安感を覚え、二人は同時に首を左右へ振った。
「いい！　いいから！」
「テツ、それ下ろせ。早く椅子に下ろせ」
「折角今日のために色々」
「それ以上言うな、頼むから」
火神がチーズバーガーの包装紙を外し、無理矢理黒子の口へとそれを突っ込んだことでそれ以上の被害はどうにか抑えることができた。
でも長い日曜は、まだまだこれから。

fin

大丈夫、二人同時にイかせてあげますから
わきわき
ドウクツ…
バクバクッ
キョウつより

黒子先輩×
火神君青峰君
cawaiiです^♡^
大雨

素晴らしきゲスト様

小説ゲスト　mina様
イラストゲスト　キョウコ様、大雨様

お忙しい中本当にありがとうございました！
感謝です！かわいい…ハア…

後書き

ここまでお付き合い下さってありがとうございます。
黒火青ちゃんでこんな絡みやあんな絡みが描きたい！
…と思ったものをとりあえず片っぱしから詰め込みました。
本当はまだ描きたいものがあったのですがページの都合で
入りませんでした…ので次回描きたいなあと…^^

調教されたかわいい雌豚ちゃんな火青描くのは本当に楽し
かったです…あ、青峰は帝光時代から仕込まれてました。

今回は割りとライトな感じだったので次はもっと激しいのが
描きたいです。

今回ゲストに来て下さったminaちん、キョウコちゃん、大雨
さん、本当にありがとうございました！わしのもんじゃ～！

…それでは、また機会があればお会いしましょう！^O^

からあげむちお

かわいいですケド
だいぶバカ。

2012/10/21
からあげオブザイヤー
からあげむちお

印刷　金沢印刷様

http://hk3456.blog47.fc2.com/
kt0000503@yahoo.co.jp

無断転載・ネットオークション等での転売は厳禁です。

かわいいですケド
だいぶバカ。